

調布市長 長友貴樹様

2021年8月10日

新型コロナウイルス感染症対策に関する第6次緊急要望

日本共産党調布市議団 岸本直子  
雨宮幸男  
武藤千里  
坂内 淳

東京都では連日 4,000 人を超える新規感染者数となり、調布市でも 60 人、70 人、80 人とこれまでにない数の新規感染者が増加し続けています。

市として様々な新型コロナ対策を講じてきていること、市職員をはじめ医師会など関係機関の日々のご尽力に、感謝申し上げます。一方で、感染者数の拡大への対策だけでなく、政府や都の感染者への対応の変更などへの対策など、新たな対策の強化が求められています。

調布市で誰一人も在宅死を生まないために、行政の役割をはたすこと、調布市民の命と健康、生活を守るために、以下の要望をいたします。

- 1, 国、東京都に対して、コロナ対応の医療機関を増やし、仮設の療養・医療機関を整備するなど、早急に医療体制を強化するよう要望すること。
- 2, オリンピック選手村などをコロナ療養施設などに転用して、臨時の療養施設の確保を進めるよう、国、東京都に要望すること。
- 3, 市として独自に療養施設を確保すること。
- 4, 東京都がパルスオキシメーターの配布を 30 歳未満に限定したことに対して、これまで通りの基準で配布するよう要望すること。また、全ての自宅療養者、待機者にパルスオキシメーターがゆきわたるよう、市独自に配布すること。
- 5, 国、東京都に対して自宅療養、待機者の方への対策の強化を要望すること。市独自の対策を強化し、症状の急変に対応できるよう適切な医療・看護を提供すること。
- 6, お盆時期や、土日休日など市役所や市内医療機関が休みの場合の、相談、検査、診療体

制を整備し、市民に周知すること。市として、土日休日もコロナ感染症で困った時の相談を受ける体制を整備すること。

7, 濃厚接触者となってもすぐにPCR検査が受けられない、家族が濃厚接触者となってもPCR検査が受けられないという実態を解決するために、何時でも、誰でも、何度でも、無料でPCR検査が受けられるよう、国、東京都に要望すること。

8, 施設などで感染者が出た場合に、保健所の対応が間に合わず、園医等と相談して独自にPCR検査を受ける事例が増えている。そうした場合に対して、PCR検査費用を補助すること。また、感染者が出た場合、その施設などの関係者全員が速やかにPCR検査を受けられるよう、市独自の対策を拡充、強化すること。

9, 市内飲食業を中心に、不十分な補償では自粛要請にこたえられない、営業がたちゆかないなどの問題が広がっている。飲食業など長引くコロナ禍で苦しむ事業所に対して、持続化給付金や家賃保証を再度実施するよう国に要望すること。また、市としての独自の現金給付型支援策の実施をすること。

10, 日本における新型コロナウイルス感染症の状況で、パラリンピックを予定通り実施することは、更なる感染者の拡大を招き、命にかかわる厳しい状況にたち、さらに救える命を救うことができなくなる事態につながる。市民の命を守る立場で、競技開催自治体の市長として、この夏の東京パラリンピックの開催を中止するよう、国、東京都に要望すること。

以上